



SHIGEYOSHI MORIOKA WOOD-FIRED KILN WORK

森岡成好展 君たちはどう生きるのか

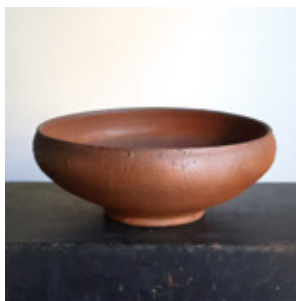
2024年11月30日(土) ~ 12月7日(土)

11/30 森岡さんご夫妻を囲む宴会(料理:すずのや)

12/1 日本酒とお菓子を楽しむ会(お菓子:annon)

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール



SHIGEYOSHI MORIOKA WOOD-FIRED KILN WORK

森岡成好展 君たちはどう生きるのか

2024年11月30日(土) - 12月7日(土)

作家在廊日 11月30日 11:00~18:00 最終日は17時迄

11/30 森岡さんご夫妻を囲む宴会(料理:すずのや)

12/1 日本酒とお菓子を楽しむ会(お菓子:annon)

ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6



1948年 奈良県吉野に生まれる
 高校・大学時代は登山に没頭
 1970年 渡米し映画制作技術を学ぶ
 1974年 種子島を訪れ南壺焼締めに出会う
 和歌山県 天野の地に築窯
 国内外の窯場を訪ね土器を学ぶ
 1991年 ネパールヒマラヤに登頂
 2024年 和歌山県かつらぎ町下天野にて制作

「どういふものを作りたいかの前に、どう生きたいのか。」若い作家さんからの問いかけに対する森岡さんの回答です。これはご自身の人生訓でもあるのでしょうか。土と炎だけのストレートな焼き物。軽やかに洗練されていく器の文脈の指からこぼれ落ちていく物としての存在感。それは魂だったり、愛だったり、人情や土着から滲み出たような器で、それがかえって時代の対極として新鮮に映ります。和歌山県の高野山の麓にある森岡さんの自宅を訪ねると、いつもそのスケールに圧倒されますが、一方で基本に忠実であり続ける生き方に大いに感化されます。毎日朝早く起きて夕方まで仕事をする。三食の食事をおこたらず、季節ごとの素材を使って料理をする。山や海の恵みを大切に、手間を惜しまず出汁をとる。複雑に加工された料理や菓子よりも、素材を素直に生かした単純な料理が一番美味しい。毎晩の晩酌は怠らない。本を読み、学び、山を歩き、鳥の声を聞く。多くの人が集い、語り、笑い、歌う。暮らしの一環の中に器づくりがある。原土を掘って薪で焼く。素材が肝心。難しいことはしない。愚直な経験の積み重ね。昔から脈々と人の営みの中にあつた仕事。無理のない循環。継続すること。等身大の器。実践こそ言葉。飾らないお人柄。そういう器には嘘が入らない。複雑化した社会構造の中にとると、当たり前がなかなか実践出来ないものです。「なんのために生きるの?」と問われているようで心の奥に刺さります。自分へ悔恨でもあり、心の沐浴でもある。そういう文脈のなかで森岡さんの器の意味を感じるのです。初日は森岡さんご夫妻を囲む宴会、二日目は日本酒とお菓子を楽しむ会を開催予定です。どうぞご参加ください。 店主